



喫茶店「茶房 千」オーナー

あきば ちかこ
秋庭 千可子さん

1958 年生まれ 東京都出身

山都町で「茶房 千」を経営するかたわら、一般社団法人越後屋の理事長を務める。また、市の定住コンシェルジュとして、I ターン希望者と地域住民との橋渡し役を担う。

「水曜勉強会」

2000 年 1 月に山都町に来たので、今年で 14 年目になります。2010 年に「茶房 千」を開き、3 年が経過しました。開店の翌年に東日本大震災が起こりました。最初の 1 年は、市外の方々が約 7 割いらっしゃいましたが、震災後は 1～2 割まで減少しました。最近は、観光客の方も少し戻ってきていますが、震災前から比較するととても少ない状態です。

震災直後は、情報が錯そうしていましたので、20 人程度の方々と自分たちが持っている情報を共有し合うため、毎週水曜日に「水曜勉強会」を開催しました。この勉強会は、山都町の方だけではなく、市外・県外の方も参加いただきましたので、様々な情報の交換ができました。今でも続いています。意見交換の場だけではなく、講演会等も開催しています。先日は、南相馬市の有機農家の方からお話を聞きました。彼の自宅は、避難区域内にありますが、避難住宅から通って農業を営んでいます。何十年も農業を営んでおられた方なのですが、震災を受けて「無念でしょうがないが、今自分にできることをやるしかない」といった熱い思いをお聞きました。その他にも、奥会津で地域づくりの勉強会を実施している「奥会津大学」の方々と交流を図るとともに、京都大学の教授を招いて市民大学※の研修会を行っています。また、綿を活用したワークショップやミニコンサートなども開催しています。最近では、「地域の自給講座」というでは地元で頑張っている方を講師とし、お話を伺う勉強会を開催しています。

※市民大学：正規の教育機関の大学ではない、生涯学習や自己啓発を目的とした講座や講演会を開催する組織。市民主導で設立されたものや自治体が設立に関与しているものなど様々である。

一般社団法人越後屋

「水曜勉強会」の主要メンバーであった女性 3 人で今年 4 月に一般社団法人越後屋を設立し、地域の活性化を図るため、情報交換の拠点整備や I ターンの方と地元の方の交流事業、講演会等を実施しています。また、1 月にはテレワーク※を活用した就労支援事業を開始します。

※テレワーク：パソコンなどの情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方



「茶房 千」

「茶房 千」

この建物は、以前物置になっていて商工会の荷物などが入っていました。たまたま、そば祭りの荷物運びにこの建物に入った際に、一目ぼれをしてしまいました。昔、旅籠であったこの建物は、黒い梁や碍子がそのままの姿でありました。私は、すでに 2 階の窓から通りを眺める自分を想像していました。隣の方に所有者の方やその親戚の方を教えてください、地元の方と一緒にうかがい、借りることができました。周囲の方々の大きなご支援に心から感謝しています。

そばとの出会い

山都町に来て数か月が過ぎたころ、当時の山都町役場の方から「素人そば打ち講座」のお話をいただき、そば打ちを始めました。このことがそばにかかわり合いのある生活になるきっかけでした。そばは、自分にとって一番大事なもののなので、一生離さないで行こうと思います。先日も、山都中学校の1年生にそば打ちを教えました。そばとのかかわり合いがあったからこそ、地域に早く入ることができ、そして人との繋がりが広がったと思います。他の1ターンの方と少し異なる点かもしれません。この経験と今のポジションを生かし、1ターンの方々と地元の方々と繋ぐ役割を担っていきたいと思います。



山都中学校のそば打ち講習会

蕎道館

山都町にはそば道場「蕎道館」がありますが、私が言い出したことが設立のきっかけになりました。そば打ちの段位※を取得しようとした際、練習する場がありませんでした。初めは、山都町の「そば資料館」で練習をしていましたが、他にお客さんがいると使えなかったり、仕事が終わってからでは施設が閉まってしまう。当時は、熱塩加納の「夢の森」に通って練習していました。そこで、以前北海道に行った際にそば打ちの道場があったので、「これを山都で作りたい」と地元で相談しました。当初は反対の声が上がりましたが、私の思いを拾い上げてくださる方々もいて、その方々のご支援をいただいて「蕎道館」の設立にいたりしました。

※そば打ちの段位：全国麺類文化地域間交流推進協議会（そば等麺類の食文化を活かした地域の活性化を図る組織）が主催する素人そば打ち段位認定制度。現在初段位から5段位までであるが、秋庭さんは2007年に4段位を取得する。

そばの今後について

私たちは、そば打ちの技術を高めることに力を注ぎできました。しかし、そば打ちが表側であるのだとすれば、それを支える裏方の仕事も本当に重要です。これからは、そばのイベントなどに家族で参加するなど、女性の参加が増えるとうれしいです。そばのイベント等を通じて、達成感や充実感を共有できる仲間が一人でも増えることを願っています。

新しい家族の誕生

今年の9月に初孫が生まれました。私は息子3人なので、「生きているうちは、孫を抱くことができないかな」と思っていました。意外に早くて…。親孝行な子どもだなと思っています。実は、体を壊したことがあったり、原発の問題があったりで自分自身を大事にしない時期がありました。自分の人生は自分のために生きるのではなく、人のために生きればよいし、少しでも地域のために貢献して生涯を閉じればよいと思っていました。だけど、孫が生まれると新たな力が湧いてきました。元気でいなければならないと思うとともに、元気で明るい自分を孫に見せたいと考えるようになりました。孫からは、本当にものすごいエネルギーを与えてもらっています。

地域の課題

私は、賢谷(かしこだに)集落に住んでいますが、そこに住むおばあちゃんが通院にデマンドバスを利用しています。先日、診療が早く終わったので予約を入れた便まで2時間待ちということでした。2時間待つのも大変だと思い、私が送っていきました。デマンドバスが予約のあり方などもっと利用しやすくなってほしいです。地域の有償ボランティアを募集しての新たな交通形態が構築できないかと思っています。

あとは、I ターンの方の収入源の確保です。I ターンの方の多くは農業に従事していますが、手が空く冬期間を利用して除雪ができないかと思っています。現在、除雪はシルバー人材センターの方々が行っていますので、それを邪魔することなくどうしたらできるのかを考えています。I ターンの方の持つ若い力を地域の方が困っている問題に注ぎ、地域の方々に喜んでもらえることが互いに仲良くなれるきっかけになるとと思います。

今の若い方々は、ものすごく真面目なんです。遊ぶことよりも「地域にどうしたら貢献できるか」、「どうしたらいい世の中ができるか」などを真剣に考えています。しかし、どんなに熱い思いがあっても、相手に受け取ってもらえなかったり、活躍の場がなかったりすると空振りに終わってしまいます。「どうしたら、結びつけることができるのか」今後、様々な分野の方々と話し合っ、知恵を借りて一歩ずつ進んでいきたいと思っています。

定住コンシェルジュ

市の定住コンシェルジュ※を務めています。I ターン希望者や農業を体験したい人に、「厳しいけど、楽しいよ」と伝えています。若い方から年配の方まで、幅広い年代の方々が相談に来られます。

山都町は、農家民宿が少ない地域です。以前は、中学生などを受け入れていたようですが、農家の方が頑張りすぎて疲れてしまったようです。グリーン・ツーリズムは、農家の普段のありのままの生活にお邪魔するというスタイルがいいと思います。手の込んだ料理より、もぎたてのキュウリが一番喜ばれたという話を聞いたことがあります。

山都町は、I ターンの方が多い地域です。豊かな自然、人情味あふれる人柄は、魅力にあふれています。I ターンの方々が来る山都の魅力を掘り起こすこと、そしてI ターンの方々と地元の人を繋ぐことができればと思います。「茶房 千」もI ターンの方と地元の方が交流のできる場にしていきたいです。実際に、地元の方からアスパラの手伝いを依頼されたり、車を譲ってもらったりといった交流が生まれています。

また、I ターンの方には、賄いもやっているの、で、「おなかが空いたらいつで『千』においで」と言っています。私、おせっかいおばさんなんです。

※定住コンシェルジュ：定住希望者の不安と悩みを解消するとともに地域住民と定住希望者との橋渡し役を担う。



東京都において開催されたふるさと回帰フェア
定住希望者からのさまざまな相談に応じた。



「茶房 千」でターンの仲間たちと

地域の方々のやさしさ

地域の方々は、「茶房 千」をなくしていけないと思いで、利用してくださっています。どこでコーヒーを飲んでもいいけれども、「千」で待ち合わせをして1杯でもコーヒーを飲んであげると「千」が助かるという思いで来てくれます。みなさんに支えられていることを強く感じています。



YMO (Yamato Moso Operation (山都妄想会))

実は、「YMO(山都妄想会)」という会があります。この会は、年に1回、夢や目標などを好きなように語っています。会のルールは、「他人の話に決して突っ込まないこと」このひとつです。「こんなことをしたい！」と声に出すと、その声を拾ってくださったり、支援していただける場合があります。

今年4月に一般社団法人越後屋を設立しましたが、これも妄想から始まりました。妄想から形になった瞬間でした

大切にしていること

縁、出会いを大切にしたいと思っています。私も多くの方々に支えていただいています。自分だけではなく、みんなと一緒に共生・共栄できる世の中になればと思います。

また、思いが強ければ、現実になると考えます。「思い続ければ、あきらめなければなんとかなる。」そう信じています。

原発への思い

自分が生きている限り、原発の行く末を見定めなければならないという強い思いがあります。次世代の子どもたちが喜んで生きていくことのできる社会を作り上げるため、この時代に生きた者としての責任であると考えます。私に何ができるかまだ分からない状態ですが、様々なことに挑戦し、私にできることを探っているところです。